

「働く力」

副校長 菅原 雅美

以前に、企業や福祉サービス事業所を訪問して、人事担当者の方にお話を聞く機会がありました。働くために必要な力として、①「あいさつ」②「伝える力」③「同じ働きができる」を挙げていました。

①「あいさつ」はコミュニケーションの最初の一步、相手と自分をつなげる最も短い会話です。「おはよう」のことばだけでなく、「会釈する」「相手を見る」「タッチする」も挨拶になります。

「あいさつ」は、社会に出てからも必ずおこなうものですので、気持ちの良い挨拶ができるように、家庭でも学校でも日々積み重ねていけたらと思います。

②「伝える力」は一般的には「報告、連絡、相談」のことです。「相談」は、困ったことや、嫌なことを相手に伝えることができるようになることです。相談は働く上で重要な力です。相談の仕方は、言葉で伝えるだけでなく、表情、タッチ、文字にするなど様々な方法で伝えることができます。困ったことや嫌なことを伝える方法を家庭と学校と協力して育てていけたらと思います。

③「同じ働きができる」は毎日同じように働けるということです。ある製品を作るのを、100個できる日、50個できる日、30個できる日と日々ばらばらではなく、毎日70個、同じ数だけできるようになることが重要です。

同じように働くには、体調や心が安定していなければなりません。心身を整えられる力、習慣を付ける、自己管理の方法を家庭と学校とで見付けていければと思います。

子どもたちの生活や進路に向けた活動を職員全体で全力サポートしていきたいと思っておりますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

中学部 インターンシップ

中学部3年生4名は、7月12日(水)に、2名ずつ分かれインターンシップをしてきました。

インターンシップとは
実際に事業所で働く体験をすること。

目的

- ・働くことへの希望や関心を高めること
- ・社会生活のルールやマナーを守ること

@かたつむりでは、ツバキの葉や鉢の汚れを落とす作業をしました。先輩にも会え、働く姿を学ぶことができました。

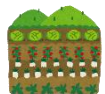


星雲工房では電子部品の組み立てや、箱の中折りの作業をしました。作業に集中し、一日がとても早く感じました。

就労支援セミナー

今年度も岩手労働局主催の就労支援セミナーが開催されました。担当者から岩手県内の障がい者雇用の現状や職業別の紹介状況等の説明がありました。3年生の生徒は「トライアル雇用って何ですか？」など、自ら進んで質問していました。

岩手障害者職業センターの担当者からは、就労生活で一番大切なことは「日常生活の過ごし方」だと力説していました。当たり前のことを当たり前にやることは、言葉で言うことは簡単ですが・・・難しいことですよね。



施設紹介



《 遠野地域福祉事業所 わの里 》

運営：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

住所：遠野市宮守町上宮守 27-44

【事業内容】

- ・就労継続支援B型事業
- ・相談支援事業

【定員】

- ・就労継続支援B型事業…20名

【開所日】

- ・火～土曜日 9:30～15:30 (利用時間)

【対象地域】

- ・送迎利用の場合 片道30分以内
- ・自家用車通勤、家族送迎の場合 制限なし

【作業内容】

○農作業部門

*屋外作業

- ・宮守川上流地域生産組合との農福連携
- ・畑作業 (収穫・草取り等)

*屋内作業

- ・分別作業等



事業所建物



入口の看板



草刈りの様子



畑作業の様子



大豆の選別

○製造部門

*菓子

- ・盛り付け
- ・洗い物 等

※カフェ・移動販売でも提供予定

○カフェ部門

*わの里 カフェ

- ・カフェ店員
- ・盛り付け ドリンク作り
- ・洗い物 等



カフェ全景



カフェ入口



人気 No.1 カフェラテ



カップクッキー



癒しの味 だしおにぎり

☆〈わの里〉は令和4年、遠野市宮守町に開所した新しい施設です。

7月25日に行われたPTA研修視察でお邪魔させていただきました。

〈わの里〉の「わ」は～和・話・輪～和やかに、話をして、輪になろう！

という意味で名付けられました。古民家を改装したカフェは毎週木・

金・土曜日の11:30～15:00 (ラストオーダー14:30)に営業しています。

窓の外には、今年「つなぐ棚田遺産」に選ばれた旧宮守村棚田が広がり、

美しい景観を楽しむことができます。料理には地元の四季折々の

食材を使用して、こころとからだにやさしいメニューを提供しています。

みなさんもぜひ一度足を運んでみてください。

